

2013年(平成25)6月

カルメル 靈性センターニュース



イエスのみ心 作者不明 19世紀 個人蔵

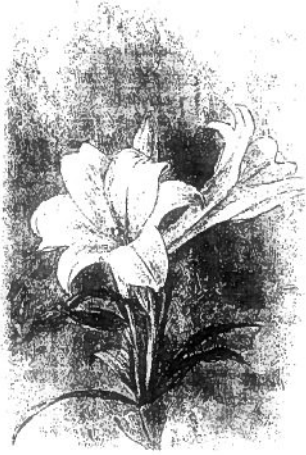
2013年6月

288号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	19
諸所の企画案内	33
年間購読(郵送)のご案内	42
編集後記	43

心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第一巻

第二十五章 生活を熱心に改める

11 苦勞に比例して報いは与えられる

いつもあなたの目的を考えなさい。そして失った時間は二度と取り戻せないと思いなさい。熱意と努力とがなければ、いつまでも徳を積み得ないであろう。冷淡になりはじめたなら、その時から不満を知るであろう。しかし熱心に励めば、大いなる平和を見だし、神の恵みと徳への愛のために、どんな苦勞もたやすいと感じるであろう。熱心で勤勉な人は、どんなことにも備えている。悪と邪欲とに抵抗することは、肉体労働に汗水流すよりも、辛い仕事である。小さな欠点を避けようとしなない人は、次第に大きな欠点にすべり落ちるであろう。一日を効果的に用いたならば、夕べになって満足するであろう。自分に警戒しなさい、自分を励ましなさい、自分を責めなさい。そして他人のことはどうあろうとも、自分のことをおろそかにしてはいけない。自分に対して厳しければ厳しいほど、徳に進歩するだろう。アーメン。

第一巻 完



靈的生活に役立つ勧めはここに終わる

信仰年に

神と親しく生きるために — 6 —

信仰は

神に到達する

唯一の手段である

～十字架の聖ヨハネ～



アッシジの教会と鳥たち

信仰年もあと半年足らず・・・信仰を深めるさらなる努力を！！ 神との一致にいたるまで信仰をさらに深めて人生の旅路を歩み続けたいものです。それにはどうしたらよいのでしょうか。神に触れ、神の恵みとその慈しみを受けるには、何をしたらよいのでしょうか。十字架の聖ヨハネは「信じること」だと言います。神とわたしたちとの間には無限の距離があります。どのようにしてこの距離を超え、愛である神、命である神に触れることができるのでしょうか。それは信仰によってなのです。

信仰は 神とわたしたちを隔てているこの無限の距離を超え
神に届くアンテナとでもいえるでしょう。

威力をもって神に触れるので、神はご自身を注がれます。
なぜなら神は愛であり、燃えさかる火なのですから。紙切れを真っ赤に燃える火にくべたらどうなるのでしょうか。燃え上がります！ *

～マリー・エウジェヌ神父～

伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

* 『いのりの道』聖母の騎士社

従い方は一種類？

くのり
九里 彰

そのとき、ヨハネがイエスに言った。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、私たちに従わないので、やめさせようと思いました」。イエスは言われた。「やめさせてはならない。私の名を使って奇跡を行ない、そのすぐ後で、私の悪口は言えまい。私たちに逆らわない者は、私たちの味方なのである。(マコ 9・38-40)

ここからイエスへの従い方には、いろいろあることが分かる。どういうことかと言うと、使徒たちのように、ふるさとや職業や家族や財産など、文字通りすべてを捨てて、イエスの後に直接従う者——現代では、聖職者や奉献生活者がこれにあたる——もいるが、この従い方が唯一絶対ではないということである。

ここには、イエスの後に直接従わないにもかかわらず、イエスの名を使って、悪霊につかれた者を解放し、癒す者がいる。これは、現代では、イエスの名を信じ、一般社会の中でその信仰を誠実に生きる一般信徒を指しているとも解釈できる。

いずれにせよ、カトリック教会は、さまざまなキリストへの従い方を容認している。司祭として、ブラザーとして、シスターとして、一般信徒として。また奉献生活の会の靈性や活動は実に多種多様である。

では、どうしてこの多様性が許されているのか。

その一つの答え。目に見える従い方は、神の前には、最終的には二次的だということである。どのような従い方を選び取ろうと、人間の外側ではなく、目に見えない内側こそが問題だということである。

換言すれば、「ただ従うこと」ではなく、「心から従うこと」こそが、問われているのである。「あなたは本当に神の言葉、神の知恵、『道、真理、命』であるキリストを信じ、愛しているのか」ということである。すべてを捨て、キリストの後に直接的に従おうと、心は離れ、形だけとなっている者もいよう。物理的にはキリストの後についていけなくとも、心はキリストにしっかり結ばれ、ひたすら後に従っている者もいよう。

人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。(サム上 16・7)

「すべての人が食べて満腹した」（ルカ 9, 17）。

人里離れたところでの多くの人たちを満腹させたパンの増加の奇跡、これは、四福音記者すべてが報告しています。他の奇跡、例えば、ヤイロの娘、あるいは、ラザロの蘇生の奇跡は、大変衝撃的なものであるにも関わらず、全員が報告しているのではなく、その意味では、何かインパクトが弱いのです。パンの増加の奇跡、人間の基本的必要を満たすパンといった、大変卑近な、日常茶飯事的なものですが、この増加の奇跡は、何か特殊な重要性を持っているかのようです。また、福音記者ルカが、他の人たちとは異なって指摘している点、表面的に見れば周辺的な重要性しか持っていないと見える若干の留意書きも、ルカのもっとも深い意図を暴露し、彼の作品全体、福音書と使徒言行録の内部でのこのエピソードが、持つに役割を際立たせています。

ルカは、このパンの増加の奇跡の直前に、イエスのうわさを聞いて戸惑うヘロデの態度（ルカ 9, 7）を配置し、直後には、「神、からのメシアです」とのペトロの信仰宣言を、記しています（ルカ 9, 20）。そして、初めての「死と復活」の予告があり、これには、タボール山でのイエスの姿の変容が続いています。パンの増加が、人間の飢えを満たすと言った次元のことに留まるのではなく、むしろ、イエスの十字架の死と復活の予告、あるいは、死と復活の先取り、その意義を、つまり、人間の深い飢え、渇きの癒しを行為による預言として語る、これが、この箇所の重要性である、と言えないでしょうか。そして、受難の前、過ぎ越しの食事で、イエスは、パンを取り、感謝の祈りを唱えて、裂き、「これはあなたがたのために与えられるわたしの体である」、「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの死により新しい契約である」と宣言されました（ルカ 22, 19, 20）。復活後に、エマオの二人の弟子たちを前にして、イエスが準備なされる夕食も、射程に入ってきます。御昇天と聖霊降臨の後、弟子たちは、このイエスを記念して、「家ごとに集まってパンを裂き」（使徒言行録 2, 45）と、描写される初代教会の共同体を想起させます。そして、ルカだけが強調しているのではありませんが、パンを配るのは、直接イエスがなさることではなく、弟子たちに命令させていることです。彼らはイエスの言葉に信じ、信頼してパンを配り始め、続ける、パンは尽きることがなく、むしろ残ったほどです。奇跡を実行するのはイエス、しかし、その言葉を信じ、パンを配る弟子たちがいます。ルカ 渡辺幹夫

年間第10主日 (C)

みことばのひびき

(ルカ7:11~17)

「主は彼女を見て、憐れに思い、『もう泣かなくともよい』と言われた。」

イエスが町の門に近づかれると、ちょうど、ある母親の一人息子が死んで、棺が担ぎ出される場所だった。その母親はやもめであって、町の人が大勢そばに付き添っていた。主はこの母親を見て、憐れに思い、「もう泣かなくともよい」と言われた。(12~13節)

この「泣かなくともよい」との言葉は、キリストがこの世に来られた目的の全てを含んでいます。本日の感動的な福音ルカ7:11~17は、イエスが私たちの涙を拭き、苦しみを柔らげ、生活の重荷を軽くするために来られたことを思い出させてくれます。一人息子の埋葬のために墓地へ行く途中、このやもめの悲しみはどれほど痛ましいものであったかは想像に難くありません。聖ルカは「町の人が大勢そばに付き添っていた」と述べていますが、どれほど多くの人がまわりにも、彼女は孤独で、悲嘆にくれるだけだったのです。ガリラヤ地方の美しい町ナインで、彼女は二つの墓、一夫の墓と今はもう一つ、一人息子の墓を見るだけでした。これは一人の女性の悲劇の物語にすぎないと思うかもしれませんが、でもこれは、本当は全ての人の物語なのではないでしょうか？ 人生はしばらくの間は美しいかもしれませんが、そうでなくなる日がかならずきます。苦しみがあり、悩みがあり、戦争があり、死があります。このことの全ての結果は苦悩であり、私たちが皆人生のどこかで屈服しなければならない悲しい経験です。

彼女の希望や抱負、夢はそのお棺の中に埋められていました。死の行列は町の門を通過して進んでいました。その日もう一つの行列がありました；イエスと弟子たちや大勢の人たちがイエスといっしょにいました。町の門のところでこの二つの行列は出会いました。「主はこの母親を見て、憐れに思い、『もう泣かなくともよい』と言われた。そして、近づいて開いているお棺に手を触れ・・・『若者よ、あなたに言う。起きなさい』と言われた。すると死人は起き上がって、ものを言い始めた。」とあります。その日二つの行列がありました。一つの行列の先頭には、人類の絶望、悲嘆、悲しみ、無力さ、希望のなさを象徴するお棺がありました。もう一つの行列の先頭は、墓への悲劇的な人類の旅を止め、希望、平和、救い、永遠の生命を提供する永遠である救い主を象徴するキリストでした。聖ルカは、死人が起き上がって、話し始めた後、「イエスは息子をその母親にお返しになった」(15節)と続けています。私たちはここで福音は「よみがえらせた」ではなく、「お返しになった」と言っているのに気づきます。

イエスは若者を立ち上がらせて、若者を所有する特別な権利を得られました。イエスが母親に対してなされたのは恵みの贈り物です。

イエス・キリストは、今もそして永遠に賛美されますように！

(Sr. Paulina)

「だから、言うておく。この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさでわかる」(ルカ7, 47)。

上掲の節は、古くは、「この人の罪、その多くの罪は赦された、多く愛したのだから」(講談社バルバロ訳)と訳されることが普通でした。しかし、この訳は、人間が「多く愛した」、だから、神から「多く赦された」との解釈に導く危険が潜んでいました。確かにギリシャ語原文を文字だけを追って直訳すると、この訳は間違いとは言い切れません。しかし、このイエスのお言葉を含む文脈とは、また、「ルカによる福音」全体のメッセージとは共鳴していません。それで、現在では、上掲のように訳されることが多いのです。たとえば、「彼女の多くの罪が赦されたのは、彼女が多くの愛を示したことでわかる」(フランシスコ会聖書研究所訳)、「この女のあまたの罪は〔もう〕赦されている。〔それは、〕この女が多く愛したことから〔わかる〕」〔岩波書店版 佐藤 研訳〕などのように。この訳で強調されるのは、神の無償、無前提な愛からの赦しであり、赦しの秘めている人間の中に愛を創造する力です。今日の福音とは対照的な例を「マタイによる福音」十八章二十三節以降に読むことができます。それは、主人の憐れみによって多くを赦された僕が、自分に負債のある同僚の比喩にならないくらいの少量の借金を赦せなかった話です。この話の頂点は、「わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか」(マタイ 18, 23)とのお言葉にあります。無償の赦しの中に真実に生きているしるしは、自分も無償で赦すように招かれている、この招きに誠実に答える義務があると言うよりは、恵みによって可能性が開かれていることの感謝と実行です。無論、罪人である人間の心の中では、このような愛の能力は麻痺しています。しかし、このような自分が、イエスから赦されている、しかも、十字架の死の値を払って赦されている、イエスの赦しは創造的なものです。「神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊を授けてください。御救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください」。清い心、確かな霊をわたしの内に創造するのは神の無償の愛のみができることです。「自由の霊」。自由、それは、自由奔放に気ままに行動できることではなく、それは、どのような状況、環境の中でも、愛を探し、愛を生きる心の構えではないのでしょうか。この神が創造して下さっている心の構えに誠実に生きること、それが真実に赦されている者のしるしなのです。ルカ渡辺幹夫

年間第12主日 (C) (ルカ9:18-24)

イエスは言われた。「自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」

今日の福音で、ひとりで祈っておられたイエスは共にいた弟子たちにお尋ねになります。「群衆は、わたしのことを何者だと言っているか。」弟子たちは、様々の憶測をしていると告げ、多くの者がイエスは真の預言者だと信じていると言いました；エリアであるとか、洗礼者ヨハネが生き返ったのだとか。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」と言われると、ペトロが答えました。「神からのメシアです。」

当時、神からのメシアは、ダビデの慣例に従う、権力と栄光ある王であると思われていました。ここでイエスはご自分に起ろうとしていることをはっきりと宣言し、皆の思いを是正なさいます。「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている。」“イエスが殺される”というその死は、神からのメシアとしてのイエスに、全く新しい、類の無い概念をはっきりと与えました。同時にイエスを確実にメシアであると信じている人々にとって、“死”は受け入れられない邪魔なものでした。事実、イエスが苦しんで殺され、三日目に死者の中から復活されると聞き大きなショックを受けたのです。このような預言を理解することは難しいことです。何と云っても、死者の中から戻ってきた者など誰もいませんでしたから。しかしイエスは、弟子たちが従って行こうとしているメシアは、このような存在であることをその時からしっかり学び取ってほしいと思っておられたのです。

福音は、イエスに付き従っていくために、自分のいのちと自我を捨てるのが大切であると告げています；日々の生活で出会う、困難や試練、苦難を耐えることによって少しずつ進歩して行きます。「日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」これは単なる言葉ではなく、主であるイエスご自身の厳しい命令、イエスに付いて行くための命令なのです。従順にイエスに聴き従って行くための恵みを願いましょう。イエスの死はイエスだけに起きた孤立した事件ではないことをしっかり心に留めましょう。イエスを見習い、完全に自分を捧げ尽くすことが、今、イエスの真の弟子となるための方法として与えられています。イエスに付いて行きたいと望む者は、自分をイエスに合わせ、絶えず進歩する過程の中で、各々に与えられた十字架を日々抱きしめて行かなければなりません。イエスの真のメシアとしての働きは、財力や権力、名声や栄光を獲得、集めるものではありません。それは全く自分を与え尽くす、十字架上の死なのです。従って使徒職もまた財力、権力、名声や栄光を求めることなくこれらを否定し、福音の教えに従って真のキリスト者としての生活に励むことです。イエスこそ見習うべき真の天の御父の信奉者です。現実には、ある意味で自分らしさを否定することなく、むしろこれを大切にし、自分を受け入れるようにと励まされています。他人を否定したり傷つけたりしない範囲で、自己を確立していかなければなりません。主の十字架の苦しみを十分に引き受けた聖パウロのことばは、慰めになります。「神を愛する者たちには、万事が益となるように共に働く。」

(Sr. Paulina)

「イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた」(助 9, 51)。

この節から、「ルカによる福音」のイエスは、エルサレムへ、受難へ、十字架へと、まっすぐに進んでゆきます。「決意を固められた」と言われるイエスの心の内が垣間見えてくる出来事がこれに続きます。イエス一行がサマリア人から歓迎されなかったときの、イエスの心の動きと弟子たちのそれとの相違が露呈するのです。ヤコブとヨハネが、「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」と言った。弟子たちは、イエスを尊重していたからこそ、こう言ったのですが。「イエスは振り向いて二人を戒められた」、つまり、二人の言葉に不快感を覚えたのです。弟子たちとイエスとのすれ違いです。これまでも、イエスは、弟子たちを時間をかけて教え諭されてきました、しかし、この時より、「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」(助 9, 23)と言われたイエスは、いろいろの機会を活用して弟子たちを「わたしに従いなさい」の道に教育することになります。エルサレムに向かう旅は、弟子たちの訓育の道、そして、その弟子たちに続くわたしたちの養成の道でもあるのです。

「あなたがおいでになるところなら、どこへでも従ってまいります」と言う人には、「人の子には枕するところもない」と応じられます。イエスへの従いは、人間が自分の発意、主導権で決めることではなく、恵みのうちに招かれる、この受動性に始まるのです。しかし、受動性が、単なる受身に終わるのではなく、自分の意欲的選り、能動性に変えられてゆくのですが。

別の人には、イエスの方から「わたしに従いなさい」と言われた。しかし、その人は、「父親の葬り」、当時の社会的倫理観で重視されていた子の義務を理由に、招きに応えることを躊躇します。また、別の方は、招きを受けても、「まず家族にいとまごいに行かせてください」と、人間の情に縛られています。しかし、問題は、子の義務、あるいは肉親の情を、イエスへの信従の招きとの競合関係に位置づけていることでしょう。イエスは、何ものにも比べられない方でありつつ、また、何ものの中にも浸透し、何ものにも新しい意義を与え、何ものをも完成する方なのです。このイエスの意義、神の国の真相を把握してゆく道、それが、イエスへの信従の道なのでしょう。 ルカ 渡辺幹夫

最後の一葉をも手放し、赤裸となって天を指す冬の木立が好きですと、2月号に記したのですが、寒さに耐えた梢の固さは、いつの間にか輪郭がぼやけるような柔らかさをまとい、ふっくらと暖まってくるようでした。

やがて、ちらちらと小さな新芽が吹き出し、陽の光にまたたくように輝きながら、日に日に勢いをつけ、枝と枝との間をずんずんと埋めていくのです。

見ていると、それはまるでみどりのレース編みのようで、編み目は時を追って密になり、色彩も、若々しいみどりから次第に色を深くして広がり、ついには、窓からの景色は一面青葉若葉で埋まってしまいます。

今、私は3年日記を使っていて、3冊目になるのですが、年間の頁を一望すると、毎年4月10日頃に必ずこのみどりのレース編みが登場します。

小さな若葉がちらちらと芽吹きレース編みのようだ、透かし模様が密になってきた、辺りは若いみどり一色だと、毎年同じ眺めを同じに感動し、同じ言葉をもって書き記しているのです。

さわやかな若葉風が部屋を吹き抜け、身も心も若みどりに染まってしまいそんな五月、「あお葉わか葉に風かおりて・・・木かげに立てるとわのみ母・・・」と聖歌にも歌われる美しき五月、マリアさまの五月です。

或る生命科学者の言葉が思い出されます。

「私たち人間が、どれほどの知力を傾けて分析したり解明したりして作り上げたとしても、叶うことはないのです。決定的に違うのは、生命というものは、『生まれてくる』のです。『生まれてきちゃう』のです。」

生まれてくる瑞々しい生命の力を浴びて、若葉の美しさに浸っていた時、突然に鳴り響いた電話のベルに、身体中が飛び上がるほどにびっくりしました。

電話が鳴る音は、他の場所に誰かがいる、何かが起こる、誰かが呼んでいる、そのことを示す音なのだと、何かの本で読んだのですが、そのとおりのようです。我にかえって受話器にのぼす手の甲に、若葉の影がゆらぎました。

20年余りの年月を共に学び合い、経験を共にし、苦楽を共にしてきた親しいボランティア仲間Sからの、それは思ってもみなかった報せでした。

不治の病を得たこと、しばらく病院にいたこと、今後も困難であることをSは語りました。

実は、Sは3カ月前に夫君を看取り、彼の国へと送られたばかりなのです。突然のあまりの出来事に耳を疑い、息がとまり、声も出せずに、床に坐りこんでしまいました。

わたし、後を追いたいのかしらとSが云いました。手術が終わって病院で一人で寝ているとき、主人が度々現れたのよ。すぐ傍にきて足をさすってくれたの。夢なのか現実なのかわからなくてぼんやりしてしまったわ。

瑞々しい若葉の生命力の中で聴くSの声は、遠くおぼつかない感じではあったのですが、それでいて静かで、うろたえる私に温かくありました。

部屋に満ちる若葉のいのちとSの声が重なり合って、一瞬めまいのような感覚に落ちましたが、しかし、じっと心を落ち着かせていると、反転して相を変えたかに思われた新緑の世界は、Sの語りつぐ声と和らぎ合い、云うに言われぬ優しさをかもし出していることに気がついたのです。

私はSの声をしっかりと心におさめました。

傍にいる。あなたが呼んだとき、必ず返事をする。と答えて受話器を置くと、若葉の落す影は濃さを増したかのようにでした。

部屋の中はしんしんとした静かさが支配しました。

私は、夫君を亡くされたときのSからの手紙を取り出し、読み返しました。手紙の中にも今ここにあるのと同じような清冽な静かさがありました。身に受けた我が事を、幾度も幾度も、苦しんで肯き、苦しんで肯き、底へ底へと降りてゆき、澄んだ泉へと辿り着いたかの静かさでした。

澄んだ泉には、澄んだいのちの力がみなぎっていることを教えられるようで、私は心の奥に響いてくる、いのちそのものであるメッセージを聴きながら、静かに十字を切りました。

「神がおられる。それが 十分だ。」

目を挙げると、満ちる若葉のいのちは一段と輝きを見せ、それは今日、とても静かでした。

いのちの言葉 6月

善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶなら、
これこそ神の御心に適うことです。

(ペトロの手紙一 2・20)

使徒ペトロは、彼の共同体に対して、福音の真の精神を具体的に実行するにはどうしたらよいかを、それぞれのメンバーが属している環境や生活状態に即して、説明しています。

今月の言葉は、キリスト教を信じるようになった奴隷たちに向けて語られていますが、当時の社会のすべての奴隷と同様、彼らは周囲から理解されず、不当でむごい扱いを受けていました。このみ言葉は、時代と場所を問わず、目上の人や仲間から理解されず、不当な仕打ちを受ける全ての人々に向けられている、と言えるでしょう。

善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶなら、これこそ神の御心に適うことです。

そうした状況の中では、人は感情的に動いてしまいがちですが、聖ペトロは、イエスが取られた態度に倣うよう勧めています。すなわち、このような困難と無理解の中にも恵みを見出し、キリスト教的な真の証しの機会となるために、神がお許しになって起こったのだと捉え、愛をもって応えるよう教えています。私たちがこうした態度をとるなら、無理解な相手でも、愛によってその人をキリストのもとに連れて行くことができるでしょう。

善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶなら、これこそ神の御心に適うことです。

今月のみ言葉や同じ内容の聖書の言葉に対して、キリスト教は過度の従順を勧めて良心を弱め、不正に対抗する意識を弱める、と批判する人もいるかもしれません。

しかし、そうではないのです。私たちを理解してくれず、不当に扱う相手をも愛するようにイエスが教えておられるのは、決して不正に対して鈍感になるためではありません。むしろその逆で、本当に正しい社会を建設するために、どうするべきかを教えたいとイエスは望んでおられます。それは、私たちの方から先に愛し始め、真の愛の精神を広めることによって、可能になります。

善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶなら、これこそ神の御心に適うことです。

では今月のみ言葉をどう生きればよいのでしょうか。

私たちも、まわりから理解されなかったり、不当な扱いを受けたりすることはよくあります。心遣いに欠ける振る舞いや、失礼な態度、悪意ある批判、忘恩、嫌がらせがあれば、重大な不正行為に苦しむ場合もあるでしょう。

こうした状況にあっても、イエスが地上にもたらされた、すべての人（私たちを不当に扱う人も含まれます）への愛を、私たちは証しする必要があります。

正義と真理を正当に守るにあたって、私たちの第一の務めは、キリスト者として相

手を愛することだと、今月のみ言葉は伝えています。イエスが私たちにされるように、相手への理解と包容力、憐れみに満ちた新しい態度を、決して忘れないことです。このような態度を取るなら、私たちは道理に従うにしても、人間関係を損なったり、相手を恨んだり、復讐したくなる誘惑に負けたりしないことでしょう。

こうして私たちも、イエスの愛の道具として、隣人に神をもたらすことができるでしょう。

キアラ・ルービック

*今月の言葉は1990年5月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

み言葉を生きて

私は、小さい頃から友達と喧嘩をしてしまったり、トラブルを起こしたりすることが何度かありました。また、友達どうしが喧嘩をしていて、間に入ることも多くありました。そんな時にキアラに手紙を書いて、今の自分には何ができるかたずねました。そして友達をゆるすことや、喧嘩をして間違えたとき気づいたときには、すぐにやり直すことを教えてもらいました。今でも、友達と喧嘩をしそうになる時がありますが、キアラが手紙に書いてくれたことを読み返して、相手を愛するようにしています。

キアラの言葉で一番助けられたのは、中学での部活の時です。私と同じパートの後輩は、違反物をもってきたり、練習を真面目にしなかったりで、私はすごく辛くて部活を辞めようと思いました。そんな時、「敵を愛する」という言葉を思い出し、はじめは上手くいきませんでした。引退するときには彼女は私に「ありがとう」と言ってくれ、私も試練を乗り越えることができ感謝しました。おかげで私は部活を辞めませんでした。キアラが私を救ってくださったのだと思っています。(M)

●お知らせ

いのちの言葉の集い

関東 6月1日(土) 13:30~ 二子玉川フォコラーレ・センター

6月9日(日) 13:30~ 神奈川 加リッソ藤沢教会 204号室

中部 6月9日(日) 14:00~ 愛知 瀬戸市本郷町東・喫茶室「游夢」

(週日に、吉祥寺、調布、鷺沼、藤沢、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

長崎 6月23日(日) 14:00~ 長崎 加リッソ浦上教会 要理教室

マリアポリ

7月13日(土)~7月15日(月・祝) ^{とうきょう}東照館(山梨県南都留郡山中湖村平野 210)

*詳細は各フォコラーレ・センターまで。

連絡先

フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

十字架の聖ヨハネ こぼれ話（70）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

ゆっくり、ゆっくりやりなさい

このこぼれ話の登場人物は、三人です。グラナダの跣足カルメル会修道院の二人の修道女と十字架のヨハネ修士です。

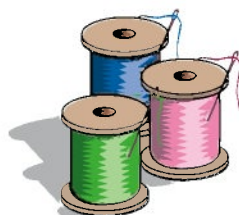
観客は、修道女の共同体です。

現場の目撃者は、神の母のマリアという修道女で、彼女がこのエピソードを物語ってくれました。

ある天気のよい日、修道女たちは、修道院の面会室に集まっていました。そこには十字架のヨハネ修士もいました。食後の共同休憩の時だったのです。修道女たちは、彼の言葉を聞き漏らさないように、また仕事からも逃げないように、「格子の部屋まで手仕事の道具を、怠けないよう、持ってきていました。彼女たちの中で、イエスのマリア・エヴァンヘリスタと、聖ヨハネのマリアという二人の修道女たちは、巻き取り機で絹糸を巻き取っていました。それぞれが、また一緒に、大急ぎで、次から次へ仕上げていました。聖ヨハネのマリア姉妹の方が残りわずかになったので、もっと多く残っていたエヴァンヘリスタ姉妹は、急ぎました。そこで件の聖なる神父は、言いました。

『ゆっくりやりなさい。靈魂の平和や穏やかさを失わないように。あなたが最初に終わるはずですから』。

そんなことは、共同体にとって不可能に思われました。聖ヨハネ姉妹よりずっとたくさん絹糸が残っていて、聖ヨハネ姉妹は、もう棒（かせ：訳注 糸を巻き取る工事型の道具）に全部巻き取りつつあったからです。その時、聖ヨハネ姉妹の巻き取り機がはずれました。糸で結びつけられたそれぞれの棒が、姉妹の手に達せず、ばらばらになりました。それは、まさに奇跡的な出来事のように思われました。聖ヨハネ姉妹の絹糸は仕上がらずに残りました。そして聖なる神父が言ったことを実行したエヴァンヘリスタ姉妹が最初に終わりました』。



ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（166）



私たちは、神の栄光となっているのです

霊的生活を生きることとは、次のような生活をするということです。すなわち、私たちは神から愛されている神の子供として神に属していることを、私たちの霊と神の霊が共に証ししてゆく生活です（ロマ 8・16 参照）。証しは、生活のあらゆる側面に及んでいます。パウロは言います。「だから。あなた方は食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい」（1 コリ 10・31）。私たちが神の子の自由を完全に目に見えるものとする時、私たちは神の栄光となっているのです。

私たちが神の霊と交わりつつ生きるならば、どこに行こうと、だれに会おうと、私たちは、証し人以外の何者でもないのです。なぜなら、神の霊が私たちを通して自らを現すからです、

(0618)

喜びに満ちた証し人であること

イエスについて、またその救いの神的業について話すことは、重荷とか重い義務であるべきではありません。私たちが人々のところへと行き、彼らがイエスについての私たちの知り方を受け入れないならば、彼らは救いの手からもれ、私たちは失敗したとを感じるならば、真の証し人であることはほとんど不可能でしょう。

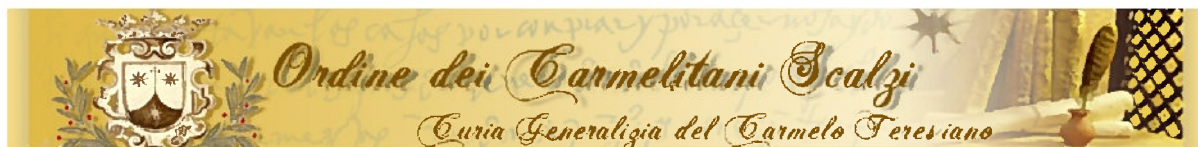
イエスは神への道を開かれた神の贖い主であることを、人々が、私たちの証しを通して、認める時、大きな喜びがあります。それは、感謝と賛美の真の原因です。けれども、言葉と行いによる私たちの証しが、人々を私たちのようにイエスを受け入れることへと導かない時でも、私たちは喜びと感謝に満ちた生を送ることができるのです。

(0806)

(九里 彰訳)

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介いたします。



<< Communications (時事通信) >>

中央アフリカの政情不安

ステファノ・モロン神父—バンギ (中央アフリカ共和国) 発 2013年5月12日

中央アフリカの状況は、フランスとアフリカ連合軍の介入による紛争安定化が期待されたにもかかわらず改善していません。いまだに完全な無政府状態です。いかなる権威も、反乱勢力——その80%は、スーダンとチャドの若者ですが——の略奪、窃盗、殺害を阻止することができません。イスラム教徒達だけはこれらから免れています。

昨晩、彼らはヨールの私たちの小神学校を襲撃しました。これで二回目です。一人が壁を飛び越えてきて、皆を驚かせました。彼は発砲し、現地の司祭たちにひざまずくよう強制したあとで、彼らになぐりかかり、打ちのめしました。そして現金、コンピューターを奪い、共犯者たちと逃げ去りました。

二週間前、バンギのカルメル会修道院が襲撃された後、私たちは、無傷で逃げてきました。戦いに勝ったと言えるほどです。なぜなら、彼らは、異なるミッションのために私たちが守っていた6台の車のうちの1台を盗むことができなかったからです。彼らは当面は襲ってきません。しかし、近隣の他の修道院が襲撃されなかった日はなく、恐れと怒りが込み上げています。(今夜3キロ離れたベネディクト会女子修道院が襲撃されました。反乱者たちは修道女たちに乱暴し、物品を略奪していきました。) 彼らはキリスト教の息の根を止めようと決意しています。また、貧しい人たちは苦難を強いられ、多くの人々が家を失いました。彼らは全てを失ったのです。ここに書き記せないほど沢山の事件が起っています。

私は今10名の子供たちのために補習授業を月曜日から金曜日まで行なっています。フランス語と英語を2時間、手芸工作を2時間担当し、そのあとでご飯にスープをかけた食事をとります。治安が大変悪く、親は子どもたちを学校に行かせるのを恐れています。教師の大半は、2ヶ月間給料が支払われていないので、学校を去っています。幾人かの人びとは誘拐されています。

私たちは神様の御手のうちにいます。神様は悪から善を引き出す方法をご存知です。どうか、祈りをとても必要としているこれらの人びとのために、お祈りして下さるよう皆様をお願いいたします。

*****絵本のための小さなおはなし*****

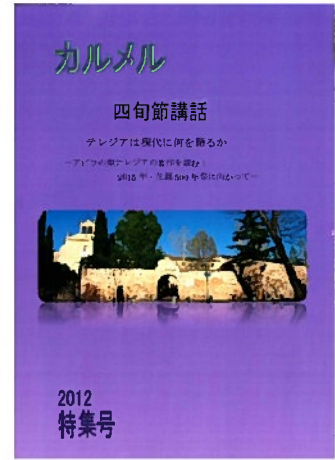
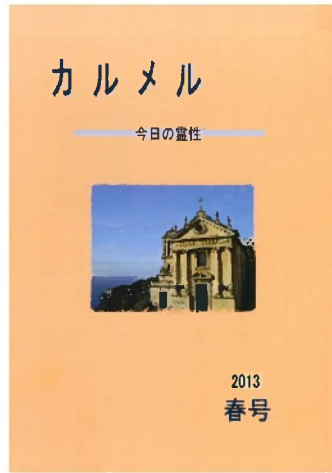
「森の中で道を探している女の人の絵のお話」

わたし： 森の中で、道を失ってしまった。 どうしたらいいのだろう。
わたしは病気。 わたしには友達が少ない。 聖霊はいる。いや、いない。
だってわたしはこんなに悩み苦しんでいるんだもの。
いる。
いや、いない。
ああ、わからない。

聖霊： 大丈夫だよ。(そっとささやく) わたしはいる。宇宙の初めから。
あなたは必ず道を探し出せる。 道は最初からあるのだから。 なくなっ
たのではないのだから。 あなたは気がつかないけれど、あなたの生ま
れる前から、あなたのハートの中に、体の中に、わたしは満ちている。
あなた自身が聖霊で満たされるべく器として、最初から創られているの
だから。



「カルメル」
今日の靈性・春号
特集号



2013 春 No.348

カルメル 2012 特集号

「テレジアは現代に何を語るか」

砂漠の修道院に入る (4)	ヤコブ神父 郵便だよー!	修道院生活 春夏秋冬 (7)	日本におけるエディット・シュタイン
奥村 一郎 49	森 みさ 43	高橋重幸 37	須沢かおり 31

二人の教会博士「イエスの聖テレサ」と「アウイラの聖ヨハネ」	アウイラの聖テレジアに見る「神の憐れみ」の体験 (1)
松田浩一 17	九里 彰 25

● 目次 ●	● 目次 ●
「今年の特集 イエスの聖テレジアと信仰」	「完徳の道」に見る「祈りと生活」
信仰を生きたる (1)	アビラの聖テレジア(アウイラの聖テレサ)の「創立史」にみる信仰の歩み
——アビラの聖テレジアの信仰理解	神の住いであるわたしたち
九里 彰 3	——『靈魂の城』に聴きながら
信仰年に 聖テレサに導かれて (1)	三位一体の神との交わりの崇高な神秘体験、地上に苦しむキリストの神秘体との連帯
伊従信子 9	新井延和 2
九里 彰 3	九里 彰 10
松田浩一 17	松田浩一 22
九里 彰 25	中川博道 35
伊従信子 9	渡辺幹夫 46
九里 彰 3	

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ '14年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 木曜黙想会 (毎回木曜日 10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。

2013年度 年間テーマ 「信仰と宣教」

7月 4日	「弟子たちの不信仰と異邦人の信仰」	福田正範神父
11月14日	「カルメルにおける宣教」	中川博道神父
12月 5日	「神の愚かさ、宣教の愚かさ」	福田正範神父
2014年		
2月20日	「復活の主の第一の使信」	福田正範神父

2. 金曜黙想会 (毎回金曜日 10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。

2013年

7月12日 「カルメルの霊性・ロスアンデスの聖テレサ」 古川利雅神父
→ ※日程が6月7日から変更されました。

10月 4日 「カルメルの霊性・ラウレンシオ修士」 古川利雅神父

2014年

1月24日 「カルメルの霊性・聖母マリア」 福田正範神父

3. 奉献生活者の為の黙想会

2013年

7月29日 (月) 18時～	8月 7日 (水)	九里彰神父
8月12日 (月) 18時～	8月21日 (水)	福田正範神父
10月 7日 (月) 18時～	10月12日 (土)	福田正範神父
12月27日 (金) 18時～	2014年1月5日 (日)	古川利雅神父

4. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

11月 2日 (土) 15時～ 4日 (月・振休) 16時

5. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

9月21日 (土) 15時～23日 (月・休) 16時

6. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2013年

11月 8日(金)20時～10日(日)16時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院（黙想）

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

木曜黙想会

2013年度年間テーマ《信仰と宗教》

「弟子たちの不信仰と異邦人の信仰」

日時： 2013年7月4日（木） 10時～16時

指導： 福田 正範 師（カルメル会上野毛修道院司祭）

場所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院
（黙想の家）

会費： ￥3500（昼食を含む）



お問合せ・・・TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

お申込み・・・*黙想会の3か月前より申込みを受付します

FAX、メール、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

金曜黙想会

一ロス・アンデスの聖テレサー

TERESA OF JESUS 《OF LOS ANDES》 (1900-1920)

カルメル会に入会してから、僅か11カ月。
19歳の若さで天に召された南米・チリの
聖女テレサ。聖女の生涯と靈性に触れながら
ゆっくりとした一日を過ごしませんか!?



- 日時 : 2013年 7月12日 (金) 10時 ~ 16時
指導 : 古川利雅師 (カルメル会 上野毛教会協力司祭)
場所 : カルメル会 上野毛聖テレジア修道院 (黙想)
会費 : ￥3,500- (昼食を含みます)

お申込みは・・・ FAX、メール、ハガキにてお願いいたします。
(尚、お問い合わせは、お電話でも承ります。)

158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会 上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764
Eメール mokusou@carmel-monastery.jp





講座のご案内

■場所： カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当： 中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:15~20:45≫

6月21日

7月19日

10月18日

生ける神との出会いを探して

— 靈性神学入門講座 / キリスト教入門講座 —

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:30~21:00≫

5	6月14日	「人間の問題性」(1)
6	6月28日	「人間の問題性」(2)
7	7月12日	「信仰を生きるとは？」
8	7月26日	「人間の問題性に関わる神」
9	9月6日	「イエス・キリストに出会う」
10	9月20日	「福音が語るイエス・キリスト」
11	10月11日	「イエス・キリストの自己理解」

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

カルメル会出版物のご案内



「神のさすらい人」
アビラの聖テレサ
マルセル・オクレール著
福岡カルメル会訳



「創立史」
イエズスの聖テレジア著



「靈魂の城」
イエズスの聖テレジア著



「カルメル山登攀」
十字架の聖ヨハネ著
奥村一郎 訳

●お問合せは下記まで

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

2013年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】 1泊2日 (午後5時～午後4時)

- 7月13日(土)～14日(日) 信仰宣言に生きるカテキズム 松田浩一神父
9月7日(土)～8日(日) 牧者キリスト 今泉健神父
11月2日(土)～3日(日) 信仰と行い 九里彰神父

【聖書深読黙想会】

- 1日黙想 (午前10時～午後4時)

- 6月1日(土) 九里彰神父
9月14日(土) 九里彰神父
11月30日(土) 九里彰神父

- 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

- 6月26日(水) 霊魂の城 今泉健神父
7月24日(水) 信仰の種 九里彰神父
8月4日(水) キリスト信者の霊的生活のカテキズム 松田浩一神父
9月16日(水) アビラの聖テレジアとイエス 今泉健神父
10月13日(水) キリスト教神秘を祝うカテキズム 松田浩一神父
12月18日(水) クリスマスを迎える心 今泉健神父

- 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

- 12月14日(土)～12月15日(日) 松田浩一神父
人間となった神の子への信仰

- 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

- 9月30日(月)～10月1日(火) 伊従信子師

カルメル青年黙想会 (午後5時～午後4時)

- 11月9日(土)～11月10日(日) 今泉健神父
キリストはあなたを呼んでいる

【一般のためのカルメルの霊性入門】

- 10月26日(土)～10月27日(日) (午後5時～午後4時) 松田浩一神父
「テレサ的カルメルの霊性 No.1」

奉獻生活者の黙想（午後5時～午前9時）

8月2日(金)～8月11日(日)	松田浩一神父
8月17日(土)～8月26日(月)	今泉健神父
12月27日(金)～1月5日(日)	松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時
12月24日(火)～12月25日(水) 【講話なし、各食事つき】



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

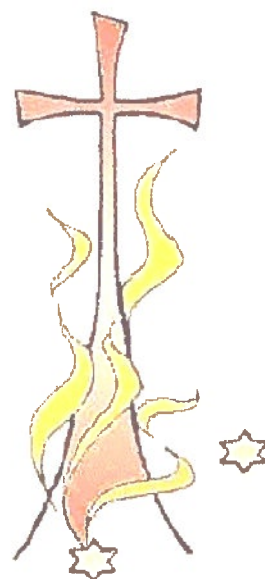
【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|-------------------|
| ① | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土) |
| ② | | 2月8日(金)～9日(土) |
| ③ | | 3月8日(金)～9日(土) |
| ④ | | 4月12日(金)～13日(土) |
| ⑤ | | 7月12日(金)～13日(土) |
| ⑥ | | 9月6日(金)～7日(土) |
| ⑦ | | 10月11日(金)～12日(土) |
| ⑧ | | 11月22日(金)～23日(土) |
| ⑨ | | 12月6日(金)～7日(土) |
| ⑩ | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土) |
| ⑪ | | 2月21日(金)～22日(土) ☆ |
| ⑫ | | 3月28日(金)～29日(土) |
- (毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

…～都会の中の一曰静修～（2013）…

(テーマ) 信仰年の課題「イエス・キリストのセンスを磨く」…2000年の時を貫いてきた教会の信仰…

「『信仰の門』（使徒言行録 14・27）は常にわたしたちに開かれています。それはわたしたちを神との交わりの生活へと促し、神の教会へと導き入れてくれます。神のことばがのべ伝えられ、わたしたちを造り変える恵みによって心が形づくられるとき、わたしたちはこの門を通ることができます。この門に入るとは、生涯にわたって続く旅に出発することです。

信仰は、それを愛が与えられる経験として生き、恵みと喜びの経験として伝えられることによって、成長します。信仰はわたしたちを豊かにします。」（「信仰の門」より）

今年の信仰年は、わたしたちを「キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行い、キリストのように愛する」ことへと招いています。この呼びかけに従って生きることは、わたしたちの中にキリストのセンスを磨いていきます。

「一曰静修」が、信仰のうちにキリストを生き抜いた先達たちの生き方に学ぶ一助となりますように。

回	月 日	テーマ	
第1回	1月14日(月)	信仰年を生きる「信仰の門」を巡って —イエスご自身の信仰—	中川博道神父(上野毛修道院)
第2回	2月23日(土)	マリアの信仰	Sr.パウリン(宣教カルメル修院)
第3回	3月23日(土)	テレーズの信仰	三上和久神父(三馬修道院)
第4回	4月13日(土)	使徒たちの信仰	今泉健神父(宇治修道院)
第5回	5月11日(土)	初代教会の信仰	松田浩一神父(宇治修道院)
第6回	6月22日(土)	殉教者の信仰	九里彰神父(本部修道院)
第7回	7月13日(土)	イエスの聖テレサの信仰	古川利雅神父(上野毛修道院)
第8回	9月7日(土)	聖家族の信仰 家庭・職場・地域で信仰を生きる	伊従信子師(ノートルダム・ド・ヴィ)
第9回	11月23日(土・祝)	十字架の聖ヨハネの信仰	福田正範神父(上野毛修道院)

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話(1)
 - 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
 - 12:15～ 昼食
 - 12:50～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30～ 講話(2)
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

一曰静修連絡係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

2013年度名古屋聖書深読会

第1回 10月26日(土)

九里彰神父(本部修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名もご記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教え(み言葉)に関心のある方なら、どなたでも構いません。

☎ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆ 連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

☆霊性センター

カルメルの霊性「祈り」を知るために。

どなたでも気軽にご参加下さい

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話（カルメル会司祭）

15:30～ミサ（賛歌ラテン語）

☆土曜フレックスタイム静修

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき、

霊的にだけではなく、心身共にリフレッシュ出来る時

間として 御利用下さい。

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読、短い講和

14:30～ベネディクション、聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です

カルメル会三馬修道院 三上和久神父



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
聖心会
サダナ瞑想
CWC (キリスト者婦人の集い)
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2013年予定

- K 3 6/7 (金) -6/9 (日) 東京・小金井・聖霊会 (研修会 2泊3日)
- M 2 6/23 (日) -6/29 (土) 宝塚売布・女子御受難会
- T 1 7/22 (月) -7/28 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
- K 4 8/24 (土) -8/30 (金) 東京・小金井・聖霊会
- M 3 9/10 (火) -9/16 (月) 宝塚売布・女子御受難会
- N 3 9/28 (土) -10/4 (金) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 5 10/12 (土) -10/18 (金) 東京・小金井・聖霊会
- T 2 10/28 (月) -11/3 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
- N 4 11/25 (月) -12/1 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム

2014年予定

- K1 1/25 (土) -1/31 (金) 東京・小金井・聖霊会
- K2 3/22 (土) -3/28 (金) 東京・小金井・聖霊会

イエス様に祈りを学ぶ

真命山の靈性



祈りの集い（午前10時～午後3時）
年間の一般のテーマ： イエス様に祈りを学ぶ

自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり

- 1月10日 ナザレの聖家族の生活における祈りの重要性
- 2月14日 イエスの生涯における祈り
- 3月14日 死を前にしたイエスの祈り
- 4月11日 最後の晩餐におけるイエスの祈り
- 5月9日 イエス・キリストのメシアとしての喜びの賛歌
- 6月13日 いやしの奇跡とかかわるイエスの祈り
- 7月11日 主よ、私たちに祈りを教えてください！
- 8月 休み
- 9月12日 イエスの「大祭司の祈り」（ヨハネ17）
- 10月10日 神との関係における沈黙の大切さ
- 11月14日 イエスと神殿（ルカ2,46 ヨハネ2,21）
- 12月12日 神の「幕屋」であるイエス（ヨハネ1,14）

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父
（真命山院長）
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・靈性交流センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。

2013年度のテーマ:

超越理解と理性の自己発見 — I 古代と中世
「古代と教父時代」(BC 5世紀—AD 6世紀)
[教父時代]

6/08、6/29、7/06、7/13、7/27、9/07、9/14

●ミサ

水曜日 17時10分—18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み。

●黙想

- ・「会社婦りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分—20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月13日は休み。8月27日はクルトゥルハイム聖堂
- ・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分—12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日は休み。
- ・水曜日 18時—18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂
どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み
- ・「通う霊操」8月24日(土)—9月1日(日)18時—20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分—16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室

講話、黙想、ミサがあります。

6月8日、7月6日、8月10日、9月7日、10月12日、11月9日、12月7日

2014年1月11日、2月8日、3月1日

・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分—16時50分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、小聖堂

●黙想会

[関東] 1泊6,600/6,800円程度。

06月15日(土):10時—16日(日)14時(東村山)

09月28日(土):10時—29日(日)14時(東村山)

11月16日(土):10時—17日(日)14時(上石神井)

2014年

03月08日(土):10時—9日(日)14時(上石神井)

[関西]

10月5日(土)13時30分—6日(日)15時(宝塚)

●坐禅会

・月曜日 17時20分—20時10分

・木曜日 18時—20時30分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し祝日、5月2日、8月全体、12月26日、30日、1月2日は休み
3回坐り、間に講話

●坐禅接心

[秋川神冥窟] 1泊2400円(+暖房費)程度。

6月21日(金)20時30分—23日(日)13時

8月10日(土)20時30分—17日(土)10時

9月20日(金)20時30分—24日(火)10時

11月1日(金)20時30分—11月4日(月)13時

[宝塚市]

・4月13日(土)13時30分—14日(日)16時

7月30日(火)17時45分—8月5日(月)15時

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時—18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室

6月30日(日)、10月20日(日)、2014年1月25日(土)

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座 2013年
日時 毎週金曜日
18時45分～20時30分

- 6/07 新約聖書の神理解— 主なる父
6/14 祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ
6/15-16●黙想会(東村山)
6/21
救い主の役割— 人類の待望
6/28 神の国— イエスの告げるメッセージ
7/05 イエスの生き方— 神に遣わされて人に仕える
7/12 イエスの譬話— 神の働きを語る
7/19
イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に
7/26 イエスは誰か— イエスの自己理解
7/27 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)
8/02,8/16○休み
8/09
最後の晩餐— 自分を与えるイエス
8/23
イエスの受難— その史実と意図(上智大学内クルトゥルハイム2階)
8/24-9/1●通う霊操(18時-20時45分)
8/30 イエスの死— その救済的意義

リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座 2013年
日時 第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

- [人生の基礎づけ]
6/04 創造・歴史・救い— イエスという中心
6/15-16●黙想会(東村山)
[倫理的行為]
6/18 行為の規範— 人間らしさと神の呼びかけ
7/02 自己実現— 責任と自由
7/16 性格の形成— 自己受容と善への憧れ
7/27 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2F、80人限定)
7/30 ○休み
8/06 人間の弱さ— 誘惑と罪
8/20 魂の癒し— 恩寵・心の入れ替え・ゆるし(上智大学内クルトゥルハイム2F)
8/24-9/1 ●通う霊操(18時-20時45分)
[根本的態度]
09/03 有意義に生きる基盤— 信仰と希望
09/17 唯一の掟— 愛による完成
09/28-29 ●黙想会(東村山)
10/01 基本的な徳— 判断力・勇気・節制
10/15 共同存在— 共通善・正義・奉仕
10/29 個人の道— 自己の課題と聖霊の導き

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール TEL 03・3263・4584

クラス・リーゼンフーバー神父
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)
Fax 03-3238-5056



いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2013年
6月15日（土）
7月13日（土）

講話 伊従 信子

午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044

練馬区上石神井4-3
2-35

TEL(03)・3594・2247

FAX(03)・3594・2254

E-mail notredamedevic.japan@gmail.com

ホームページ

<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、そ

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

- ◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel：077-579-7580 Fax：077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com
- ◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩 約13分
- ◎ 日程：
 - A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。
② 8月14日（水）～ 22日（木） ③ 9月27日（金）～ 10月5日（土）
④ 12月27日（金）～ 2014年1月4日（土）
 - B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）
【神との親しさの中で日常を生きるために】
④ 6月14日（金）～ 16日（日） ⑤ 7月12日（金）～ 14日（日）
⑥ 11月1日（金）～ 3日（日） ⑦ 11月29日（金）～ 12月1日（日）
 - C. 講話 黙想（奉獻生活者のため）
5月26日（日）～6月3日（月） 北村 善朗 師（京都教区）
- ◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 靈的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。
- ◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なりたい方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

2013年聖書で祈る個人指導黙想会 短期間の黙想会のお知らせ

日ごろの忙しさと喧騒から、短い期間、時間でも、静かなひと時を、聖書をひも解きながら、神様と共に、神様の声に耳を澄ませて過ごしませんか。

下記のように、東京の静かな黙想の家での個人指導黙想会を企画いたしましたので、ご案内をいたします。

2013年度 聖書で祈る個人指導の黙想会 (短期間)

期間 ①2013年 6月18日(火)午後～23日(日)午後

②2013年 11月19日(火)午後～24日(日)午後

上記の期間中 各自の希望で1泊2日から4泊5日まで選ぶことができます。

場所：上野毛カルメル会修道院(黙想)

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

電話 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764

費用：1日(3食込み)8000円で必要な分

ヘルパー：

吹田 真佐子 665-0073 宝塚市塔の町3-113 聖心会小林修道院

電話 0797-71-7321 FAX 0797-72-6347

長谷川 和子 150-0012 東京都渋谷区広尾4-3-1 聖心会寮修道院

電話 03-3499-4817 FAX 03-3499-8282

申込み：申込書に3000円(黙想会の費用に含む)を添えて、上記住所に宛ててお送りください。なお、参加取り消しの場合は2週間前までにお申し出ください。それ以後は申込金の払い戻しが出来ませんのでご了承ください。

申込み期限：黙想会の2週間前まで

お願い：お申込みいただいても受付確認の連絡がない場合には長期間留守していることがありますので、お問い合わせさせていただきますように、よろしく願いいたします。

交通機関：

カルメル会修道院(黙想)会場へは、東急東横線「自由が丘」駅乗換、池上線4つ目の「上野毛」駅が便利です。

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
入門 B	6/23(日) 9:30-17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※ TEL/fax 03-5802-3844
サダナ I	7/12(金)17:30- 7/15(月)16:00	Fr ラフォンテ	女子御受難会修道院 (宝塚)	大倉本子 Tel:078-811-2706
サダナ I	7/12(金)17:30- 7/15(月)昼食	Fr植栗	小金井聖霊修道院	若山美知子※
霊操とII	8/17(土)17:30- 8/26(月)朝	Fr植栗	広島市・西日本霊性センター(長束黙想の家) 申込み:西日本霊性センター「こもれび」 Sr 田中 Tel 082-239-0034/Fax239-0036	
日帰り (注)	9/1(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 105号室	若山美知子※
入門 C	9/8(日) 9:30-17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
サダナ II	9/12(木)17:30- 9/16(月)16:00	Fr植栗	沖縄・聖クララ修道院	申込み:Sr 比嘉 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720
サダナ I	9/20(金)17:30- 9/23(月)16:00	Fr植栗 FrA.マルコ	シャルトル聖パウロ会盛岡修道院 (盛岡市)	申込み:伊藤律子 TEL090-4478-0088
入門 A	10/6(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
サダナ II	10/10(木)17:30 10/14(月)16:00	Fr ラフォンテ	女子御受難会修道院 (宝塚)	大倉本子
サダナ I	10/11(金)17:30- 10/14(月)昼食	Fr植栗	熊本・真命山(玉名郡和水町) 申込み:壽賀佳子 Tel:099-282-2289 携帯:080-6400-0610	

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

(注) 日帰り＝サダナ I を終えた方

*サダナ I = 体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

*サダナ II = I をいっそう深める。身体・感情・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

CWC (キリスト者婦人の集い)

カルメルの霊性に学ぶ

『完徳の道』

場所：真生会館 10:30～12:00

6月11日（火）『完徳の道』第32～第33章

7月9日、9月10日、11月12日、12月11日



東京都新宿区信濃町33番地4 真生会館ビル

TEL：03-3351-7121（受付代表）

<http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/>

九里彰神父（カルメル会日本管区長）

慈しみ深き会

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて

—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会信徒会館3Fアルペホール 14:00～16:00

7月からは「岐部ホール」。12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

6月12日（水）『靈魂の城』第5の住居の第1章

7月10日、9月11日、11月13日、12月12日

アピラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

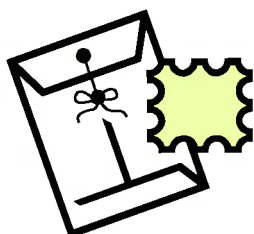
*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



『霊性センターニュース』年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。

例：1月申込の場合は、2月号～12月号（8月号休刊除きます）

この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1764

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

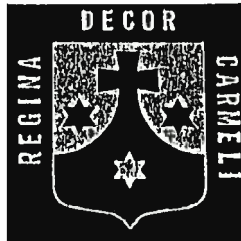


編集後記

先日、名古屋市内の広い道路を、制限速度を守ってゆっくり走っていると、前方に警察官が何人か立っている。何をやっているのだろうと思っていると、長い棒を持った警官が左折するように合図している。何もやましいことがないので、心穏やかなまま横道に入り、道路脇に一時停止。窓を開けて「どうしたんですかー？」とたずねる。本人は、捕まったなどとは、まったく考えていない。

と、後ろから「その車じゃないよ、もう一台後ろだよ」などという声が聞こえる。「え?!」。「間違えました。後ろの車だったようです」、早く行くように合図している。どうやらシートベルトか、携帯の取り締まりを行っていた模様。あやうく誤認逮捕されるところであった。私が規則違反すれば、罰金を取られるわけだから、こういう場合、私の方が警官から罰金を取り立てることはできないものか。

それにしても、最近の運転マナーは、ひどい。カーレース（カレーライスではない!）まがいの猛スピードで右に左に、方向指示器も出さず、追い越していく車をよく見る。「狭い日本、そんなに急いでどこへ行く」。 (P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「7月号」製本日

[6月25日\(火\)](#) 上野毛教会信徒会館ホール1階

午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171